

## 資料 17：わが国の大学医学部（医科大学）白書 2005

全国医学部長病院長会議（2005.5）

## 序 文

我々医学部（医科大学）の基本問題に関する委員会は、平成 16 年度全国医学部（医科大学）アンケート調査に基づき、ここに『我が国の大学医学部（医科大学）白書 2005』を発売できる事を、大変嬉しく思います。この白書は全国の医学部長（医科大学長）、病院長に対するアンケート調査を取りまとめたものですが、今回が 8 回目の刊行となります。教育機関としての医学部（医科大学）、医学の研究、そして大学病院の診療のみならず医療上の諸問題を大学の立場から全国規模で調査した内容を総括した資料で、極めて貴重なものであると考えられます。このような事業に携わることが出来ることに対し、本委員会委員一同誇りに思っております。『白書 2005』は、『白書 2003』と同じく 6 章に分けられていますが、基本的には『白書 2003』の調査内容を 75%引き継ぎ、同時に以下に示しますように幾つかの大きな変更も試みられております。

第 1 章では、従来の“入学者選抜”から“共用試験”、“モデル・コアカリキュラム”、“PBL チュートリアル”に加え、新たに“危機管理安全教育”、“学生の国際交流プログラム”等への各大学医学部（医科大学）の取り組みがまとめられております。

第 2 章では、従来の“大学の評価体制・組織運営”に加え、新たに“法人化”の項を立ち上げました。今回は、平成 16 年 4 月より始まった国立大学法人化の半年後の調査ですので、実績のある私立大学とは異なり、一部では不十分な内容となった可能性もあります。しかし、そのような中で各大学が真剣に取り組んでいることが今回の調査からも窺え、大変意義があったと思っております。今後の継続的調査が必要です。

第 3 章は“卒前・卒後の臨床教育と研修”です。『白書 2003』まで、卒前臨床教育は第 1 章の医学教育のなかにまとめられておりましたが、『白書 2005』では、“卒前臨床教育”、“卒後初期臨床研修”、そして“卒後後期臨床研修”を一括して一つの独立した章といたしました。卒後の初期臨床研修は、国立大学での法人化と同様、十分な検証がなされていない面もあると思われます。しかし、現時点における各大学、及び大学病院での真摯な取り組みが窺えるアンケート結果

であったと考えております。

第 4 章の“大学院と研修体制”に関しては、『白書 2003』の時の調査内容を踏襲し、継続性を持たせました。第 1 章“医学教育”と同様、現在、急速に進行している大学教育改革の大きな嵐の中での 2 年間の推移が読み取れるアンケート結果となっていると思われます。

第 5 章の“大学附属病院”は、『白書 2003』まで“大学附属病院（国公立大学）”、“私立大学医学部と附属病院”の二つの章に分けていたものを一つにまとめました。殊に、法人化とともに進行している大学附属病院における“管理・運営”、“病院経営と評価”、更に“管理体制”に関する調査を行いました。各項目は各々大きな内容で、また答え難い設問も多く、回答をいただいた方には大変ご苦勞をおかけしましたことを心苦しく思っております。この点は深く反省し、次回刊行される白書においては改良を加えます。

第 6 章の“社会および地域への貢献”は、新しい章です。現在、社会的注目の的である大学附属病院の地域医療への取組み、及びこれと関連した“入学試験方法の改革”、“学部教育における地域医療・保健教育”の実践、更に“卒後における地域保健・医療研修”、“大学院の地域・社会貢献”、“大学と地方自治体”、“国際社会への貢献”等、多岐に渡る調査を行いました。各大学それぞれに多くの取組を行っていることがわかります。今後、更に発展していくところでもあり、追跡調査が期待されます。現在、各大学医学部（医科大学）及び大学附属病院が直面している大学改革・教育改革・医療改革という大きな歴史的なうねりの中で、この『白書 2005』が刊行されたと言って良いかと思えます。各大学における改革の現状と基本的課題・問題点を明らかにし、今後の大学医学部（医科大学）のあり方、殊に医学教育、研究、更には医療の実践のあり方を考える上で役立つ資料となれば幸いです。

最後に、ご多忙の中膨大なアンケートに対し真剣にご協力を頂いた、各大学医学部長、医科大学長、病院長、関連教職員の方々、更にはアンケート調査とために携わった委員各位、事務職員の方々に対し心より感謝の意を申し上げます。

医学部〔医科大学〕の基本問題に関する委員会  
委員長 神保 孝一

## 目次 (編集部注; ページ略)

- 第1章 医学教育について
  - I. 入学者選抜
  - II. 学士編入学者選抜
  - III. メディカル・スクール制
  - IV. 一般(教養)教育
  - V. モデルコアカリキュラム
  - VI. PBL チュートリアル
  - VII. 共用試験 CBT (Computer based testing)
  - VIII. 共用試験 OSCE (客観的臨床能力判定試験)
  - IX. 予防医学教育, 福祉教育, 倫理教育, 危機管理安全教育, 健康管理と厚生
  - X. 学生の国際交流プログラム
- 第2章 大学の評価体制・組織運営と法人化
  - I. 大学の点検・評価
  - II. 大学の組織運営
  - III. 法人化
- 第3章 卒前・卒後の臨床教育と研修
  - I. 卒前臨床教育と研修 (クリニカル・クラークシップ)
  - II. 学外実習病院
  - III. 臨床教授制
- IV. OSCE
- V. 卒後初期臨床研修
- VI. 卒後後期臨床研修
- 第4章 大学院と研究体制
  - I. 組織・運営体制
  - II. 入試体制と広報
  - III. 教育・研究体制
  - IV. 大学院と卒後臨床研修
  - V. TA/RA・経営支援・知的財産
- 第5章 大学附属病院
  - I. 理念
  - II. 管理・運営
  - III. 病院経営・評価
  - IV. 管理体制
- 第6章 社会および地域への貢献
  - I. 地域医療支援と入学試験
  - II. 学部における地域医療・保健教育
  - III. 卒後における地域保健・医療研修
  - IV. 大学における地域・社会貢献
  - V. 大学院の地域・社会貢献
  - VI. 大学と地方自治体
  - VII. 国際社会への貢献

アンケート

## 資料 18: 我が国の高等教育の将来像 (答申)\*

中央教育審議会 (2005.1.28)

## 目次

はじめに

## 第1章 新時代の高等教育と社会

- 1 今後の社会における高等教育の役割
- 2 高等教育の中核としての大学
- 3 高等教育と社会との双方向の関係: 高等教育の危機は社会の危機

## 第2章 新時代における高等教育の全体像

- 1 「高等教育の将来像」についての基本的考え方: 高等教育計画から将来像へ
- (1) 18歳人口の動向とこれまでの高等教育計画等

- (2) 国の今後の役割
- 2 高等教育の量的変化の動向
  - (1) 全体規模等に関する考え方
    - (ア) 高等教育の全体規模
    - (イ) 経営状況の悪化した高等教育機関への対応
  - (2) 地域配置に関する考え方
  - (3) 今後の人材養成の分野別構成等に関する考え方
- 3 高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化
  - (1) 各高等教育機関の個性・特色の明確化
  - (2) 大学の機能別分化
  - (3) 学習機会全体の中での高等教育の位置付けと各高等教育機関の個性・特色
    - (ア) 高等教育と初等中等教育との接続
    - (イ) 高等教育と生涯学習との関連

\*[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101.htm) (accessed 18 July 2006)